

U9-2024-

課題論文

試験問題

注意事項

1. 問題は **2 題**あります。 **2 題とも必ず解答**してください。
2. 解答時間は **3 時間**です。
3. 答案用紙の記入について
 - (ア) 答案は濃くはっきり書き、書き損じた場合は、解答の内容がはっきり分かるように訂正してください。
 - (イ) 問題 **1 題に 1 枚**(両面)を使用してください。
 - (ウ) 表側の各欄にそれぞれ必要事項を記入してください。**問題番号欄には、問題 1 は「1」、問題 2 は「2」と記入**してください。
 - (エ) 試験の公正を害するおそれがありますので、答案用紙の切取線より下の部分に氏名その他解答と関係のない事項を記載しないでください。
4. この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。
5. 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
6. 下欄に受験番号等を記入してください。

第 1 次試験地	受験番号	氏 名
----------	------	-----

指示があるまで中を開いてはいけません。

途中で退室する場合………本試験種目終了後の問題集の持ち帰りを

希望しない

問題 1

政府においては、第 5 次男女共同参画基本計画等に基づき、育児休業等の取得を推進するとともに、令和 2 年度から、子供が生まれた全ての国家公務員の男性職員が 1 か月以上を目途に育児に伴う休暇・休業を取得できることを目指し、取組を進めている。

下表のとおり、国家公務員の育児休業取得率は、平成 26 年度においては、男性は 3.1 %、女性は 98.7 % であったところ、令和 4 年度においては、男性は 43.9 %、女性は 102.2 % (注) と着実に増加している。

男性職員による育児休業の取得については更に促進の余地があり、啓発ポスター等による推奨などがされているが、このほかに、どのような方法が効果的と考えられるか。職場環境づくりの観点を中心に具体的に述べなさい。

育児休業取得率の推移 (単位：%)

年度	男性取得率	女性取得率
平成 26 年度	3.1	98.7
平成 27 年度	5.5	100.3
平成 28 年度	8.2	99.9
平成 29 年度	10.0	100.8
平成 30 年度	12.4	98.5
令和元年度	16.4	100.5
令和 2 年度	29.0	100.1
令和 3 年度	34.0	104.2
令和 4 年度	43.9	102.2

内閣官房内閣人事局「国家公務員の育児休業等の取得状況のフォローアップ(令和 6 年 1 月 19 日)」を基に作成

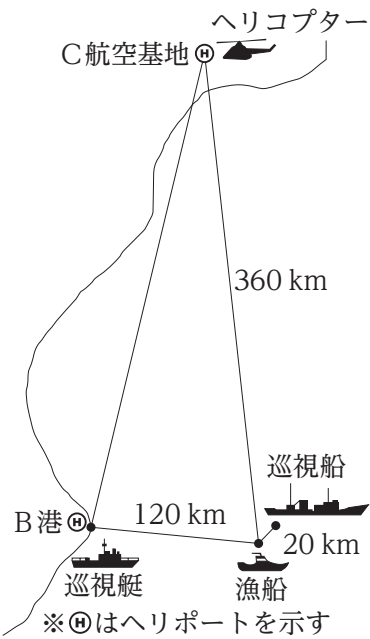
(注) ある年度の「取得率」は、同年度中に子が生まれた職員(育児休業の対象職員に限る)の数(a)に対する同年度中に新たに育児休業をした職員数(b)の割合(b/a)。(b)には、同年度になって新たに育児休業を取得した職員ではあるものの、その子は同年度より前に生まれた場合のものが含まれるため、取得率が 100 % を超えることがある。

問題 2

8 月 18 日午後 5 時零分頃、しょう戒中の海上保安庁無人航空機シーガーディアンにより、甲板上に人が横たわったまま漂流中の漁船が発見され、現場海域を管轄する A 海上保安本部に直ちに映像及び発見位置が連絡された。

連絡を受けた A 海上保安本部は映像から船名を確認し、漁船の所属する漁業協同組合に照会したところ、8 月 17 日午前から B 港を乗組員 1 人で出港したまま戻っていない漁船であることが判明した。

A 海上保安本部では救助手段として、ヘリコプター、巡視船、巡視艇を使用することが可能である。この場合、右図の位置関係及び以下の条件下においては、あなたならどのように救助を完了させるか、考えた救助方法とその理由について説明せよ。



〈条件〉

- ・ 発見位置付近の天候は次第に崩れ、波や風が強くなる予報である。
- ・ 発見位置付近の日没予定は午後 7 時零分頃である。
- ・ 発見位置から一番近い B 港までの距離は 120 km で、B 港のすぐそばにはヘリポート付きの総合病院がある。
- ・ ヘリコプターは機動救難士が搭乗しており、C 航空基地で訓練中のため、資機材積み替え及び燃料搭載に 30 分必要で、救助の際は、船に近づき機動救難士が降下して要救助者を吊り上げるため 20 分必要である。
- ・ 巡視船は B 港を基地としており、現場海域にほど近い海域をしょう戒中のためすぐに対応可能で、救助の際は、搭載艇を降下し接近して横付け後に要救助者を収容させ搭載艇を揚収するため 30 分必要である。
- ・ 巡視艇は B 港を基地としており、基地待機中のため出港準備に 10 分必要で、救助の際は、船どうしを横付け後に要救助者を移動させるため 10 分必要である。
- ・ ヘリコプターと巡視船又は巡視艇の間で要救助者を移動させる必要がある場合は、ヘリコプターの救助所要時間と同様の 20 分が必要である。
- ・ 巡視船と巡視艇との間で要救助者を移動させる必要がある場合は、巡視艇の救助所要時間と同様の 10 分が必要である。
- ・ 漂流中の漁船はエンジンが停止しており再起動できない。
- ・ 以上のほか各救助手段の能力(速度)を含め、状況をまとめると以下の表のとおり。

救助手段	状況	出発までの時間	速度	現場までの距離	救助所要時間
ヘリコプター	訓練中	30 分	240 km/h	360 km	20 分
巡視船	しょう戒中	0 分	40 km/h	20 km	30 分
巡視艇	基地待機中	10 分	60 km/h	120 km	10 分